

第4章 歴史文化保存活用区域の設定

第1節 歴史文化保存活用区域設定の方針

歴史文化保存活用区域は、壱岐遺産が地理的に集中し、その資産を核として周辺環境も含めて文化的な空間を創出することを目的とした計画区域である。この区域では歴史文化を活かした様々な取り組みを積極的に推進し、壱岐市のまちづくりに資することを目的とする。

以下に、歴史文化保存活用区域設定の要件を整理する。

① 多くの壱岐遺産が集中する区域

壱岐遺産が集中する区域であり、史跡、建造物や社寺、街なみ、祭礼、民俗、景観など、多様な文化財の保存活用による相乗効果が期待できる区域。

② 壱岐の歴史文化の特徴を顕著に表す文化財がある区域

関連文化財群のテーマとする壱岐の歴史文化の特徴が顕著に表れ、核となり得る重要な文化財がある区域。

③ まちづくりの観点から文化財を核として面的な広がりを持った活用ができる区域

文化財の保存活用と周辺環境の保全を核として、その結果、認知度の向上や経済的な効果が期待できる区域。

第2節 歴史文化保存活用区域の設定

区域設定の方針に基づき、壱岐遺産の現状を踏まえて以下の3区域を設定する。

① 一支国の王都と在の景観

弥生時代の一支国（壱岐国）の王都に特定された特別史跡原の辻遺跡を中心とする区域である。原の辻遺跡とともに日本遺産に選定された内海湾、長崎最大級の水田地帯が広がる深江田原、安国寺などがある。原の辻遺跡は第一期整備を終え一支国王都復元公園として公開されている。また付近に一支国博物館が建設されている。

景観計画において、原の辻遺跡の周辺は重点景観計画区域に設定され、景観保全が図られている。

一支国をテーマとした保存活用とともに、内海湾の景観、深江田原の水田と背戸山からなる散村の風景が壱岐の歴史文化を語るうえで重要となる。また、くらしの中で伝承されてきた安国寺、比賣神社などの社寺、玉塚古墳、大塚山古墳などの古墳があり、面的な活用が可能である。

② 古代壱岐国の中心地

古代の豪族「壱岐氏」の居館（現在の国片主神社とされる）があり、壱岐の政治的中心地であった。この地には古墳時代後期から末期にかけて数多く造られた壱岐古墳群が残されている。また天平時代の遺跡である壱岐国分寺跡がある。壱岐の伝統的な暮らし

を伝える壱岐風土記の丘には古墳館が整備されており、古墳の構造や特徴に関する展示がなされている。

一大勢力を誇った古代壱岐を顕著に表現する区域であり、周辺環境と一体的な保存活用により面的な活用が可能である。

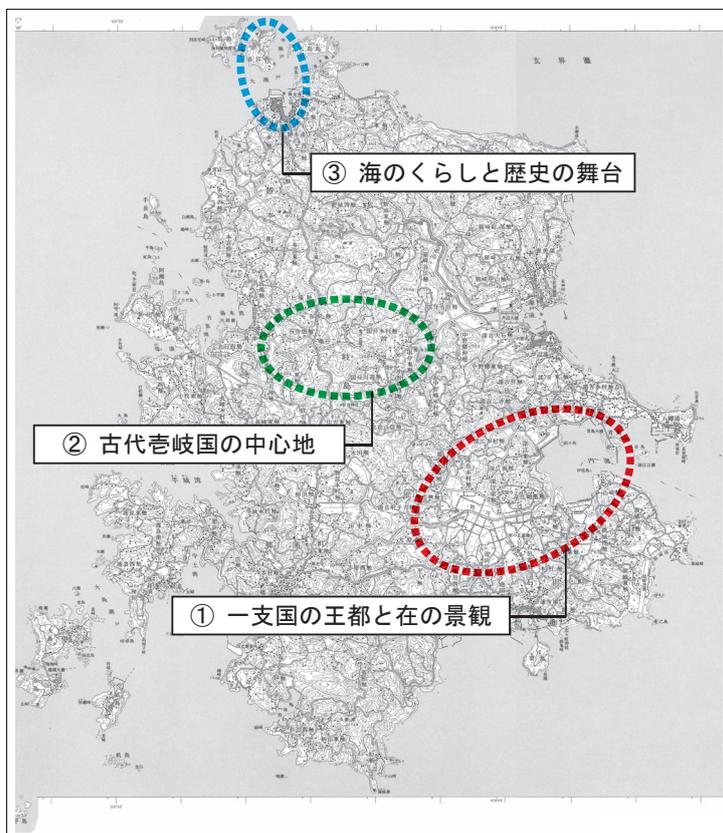
③ 海のくらしと歴史の舞台

勝本浦は大陸や朝鮮半島の玄関口として栄えた港町で、漁港沿いに古い街なみが残る。この街なみは景観計画において重点景観計画区域の候補地に指定され、また街なみ環境整備地区であり景観整備事業が完了している。

近世の勝本浦は、断続的に朝鮮通信使を迎えた接迎所が置かれ、その客館の図面として「朝鮮通信使迎在所絵図」（世界の記憶）が残っている。また、捕鯨が江戸時代中期から盛んに行われ、鯨組の歴史を伝える田ノ浦納屋場跡や捕鯨の道具が伝えられている。さらに、盛大な祭礼が行われている聖母宮があり、船競漕行事（ミーキブネ）は海のまつりのあり方として特徴的である。

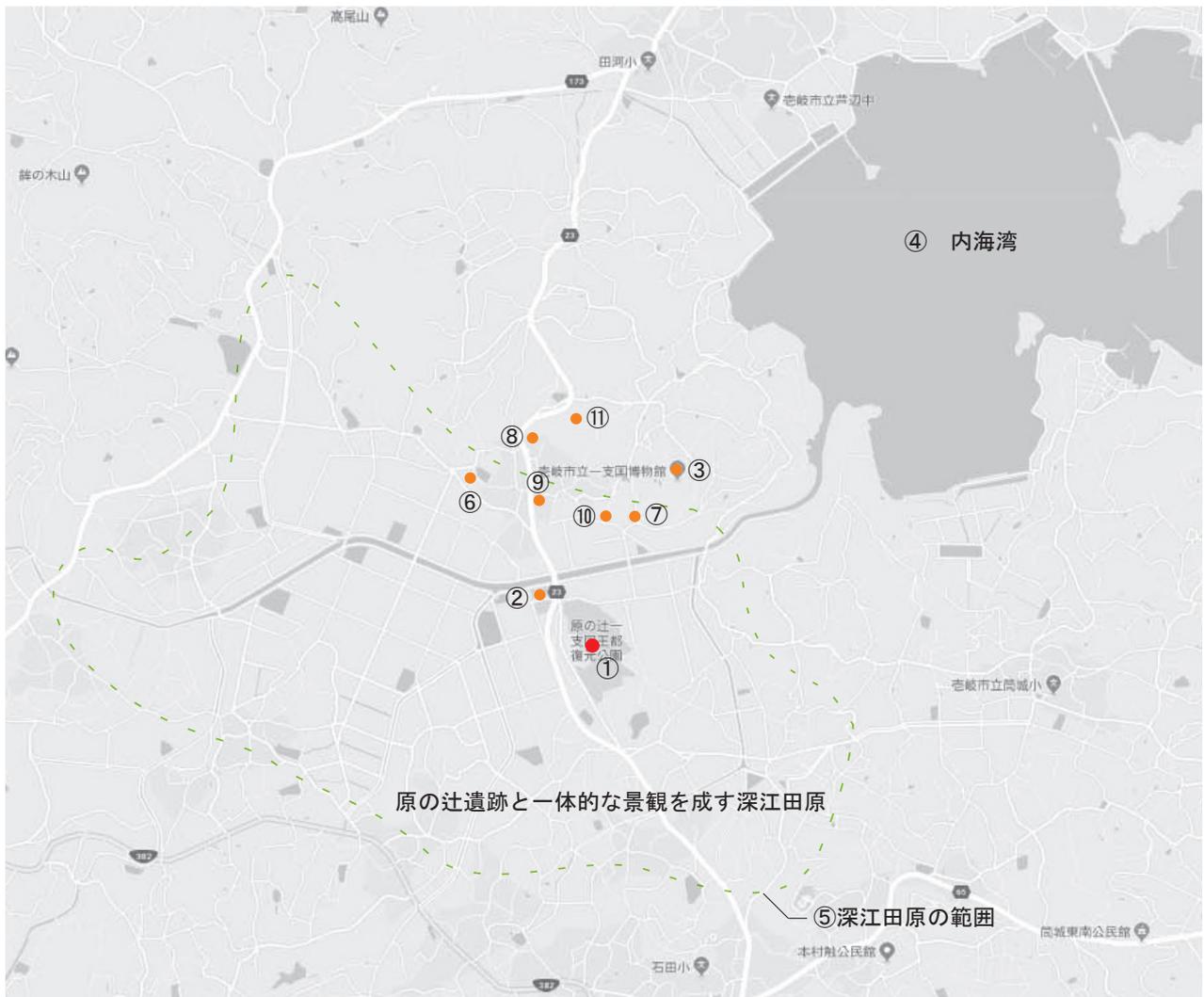
軍事的にも重要な立地にあり、古くは安土桃山時代の秀吉による文禄・慶長の役において、勝本に兵站線となる出城「勝本城」が築かれ、現在も縄張りの石垣が残り、国史跡として保護されている。また、江戸時代前期には若宮島に遠見番所と烽火台が置かれていた。さらに、第二次世界大戦前には名鳥島砲台が置かれ、戦後には若宮島に海上自衛隊壱岐警備所が置かれている。

このように、多様な文化遺産が集中する区域であり、面的な広がりを持ち、街なみや祭礼というまちづくりへの展開が期待できる文化財を有している。



歴史文化保存活用区域

歴史文化保存活用区域 1（一支国の王都と在の景観）

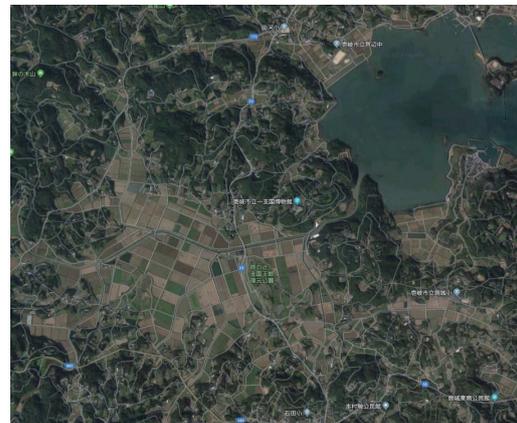


(地図：Goog lemap 使用)

- | | |
|------------|---------------|
| ① 原の辻遺跡 | ⑦ 比賣神社 |
| ② 原の辻ガイダンス | ⑧ 安国寺 |
| ③ 一支国博物館 | ⑨ 烏帽子橋石 |
| ④ 内海湾 | ⑩ 玉塚古墳（玉主賣の墓） |
| ⑤ 深江田原 | ⑪ 大塚山古墳 |
| ⑥ 深江神社 | |



原の辻遺跡



内海湾と深江田原

	壱岐遺産	概 要
①	原の辻遺跡 (はらのつじいせき)	弥生時代の大規模環濠集落遺跡であり、「魏志倭人伝」に記される一支国(壱岐国)の王都に特定されている。東アジアの交流・交易の拠点であった。第1期整備が完了し、「一支国王都復元公園」として公開されている。この周辺では、当時の船着き場や旧河道、墓域が発見されており、今後の整備が期待される。
②	原の辻ガイダンス	復元公園の活用施設であり、展示室・体験学習室・売店の機能を持つ。
③	一支国博物館 (いきこくはくぶつかん)	壱岐市立の博物館であり、長崎県埋蔵文化財センターと同じ建物にある。壱岐の歴史に関する総合博物館。島全体に歴史が残る「しまごと博物館」の拠点として設置された。
④	内海湾 (うちめわん)	原の辻遺跡への水運路は、内海湾に古代舟を停泊し、小舟に乗り換えて幡鉾川を遡上し、船着き場に至るルートが想定されている。また内海湾は景観に優れ、湾内には小島神社が祭られている。
⑤	深江田原 (ふかえだばる)	約300haの長崎県で2番目の広さを持つ平野。肥沃な田畑が営まれる。広大な水田に背戸山を持つ農家が点在し、壱岐の散村の風景が維持されている。
⑥	深江神社 (ふかえじんじゃ)	天正11年(1583)上棟文あり。その記述より深江大明神とも呼ばれる。延宝の改め以前は式内社であったとされる。11月11日に例祭が行われる。
⑦	比賣神社 (ひめじんじゃ)	小高い丘の中腹に立地し、原の辻遺跡を見渡せる。
⑧	安国寺 (あんこくじ)	室町時代、足利尊氏・直義の全国への安国寺造営の命により、従来あった海印寺を安国寺とした。臨済宗の寺院で、室町時代の文化財を多く所蔵し、高麗版大般若経は国の重要文化財に指定されている。
⑨	烏帽子橋石 (えぼしばしいし)	安国寺参道にある烏帽子の形をした奇岩。
⑩	大塚山古墳 (おおつかやまこふん)	深江田原を見下ろす標高74mの丘陵上に築造された円墳。石室は竪穴式から横穴式への移行過程を示す竪穴系横口式の構造を持つ。5世紀後半頃の築造と考えられ、壱岐島内では最古級とされる。現在整備され、見学できる。
⑪	玉主賣の墓 (たまぬしめのはか)	玉主賣は雷大臣命の孫、壱岐直真根子より16代目、壱岐直玉守の娘。宝亀3年(772)、15歳で夫を失ったのち30余年の間、夫の墓に仕えた。このことにより朝廷から爵2級を賜り田租を免じられたという。安政年間には松浦藩主により、墓の横に顕彰碑が建てられた。なお、玉主賣の墓は「玉塚古墳」として伝えられている。



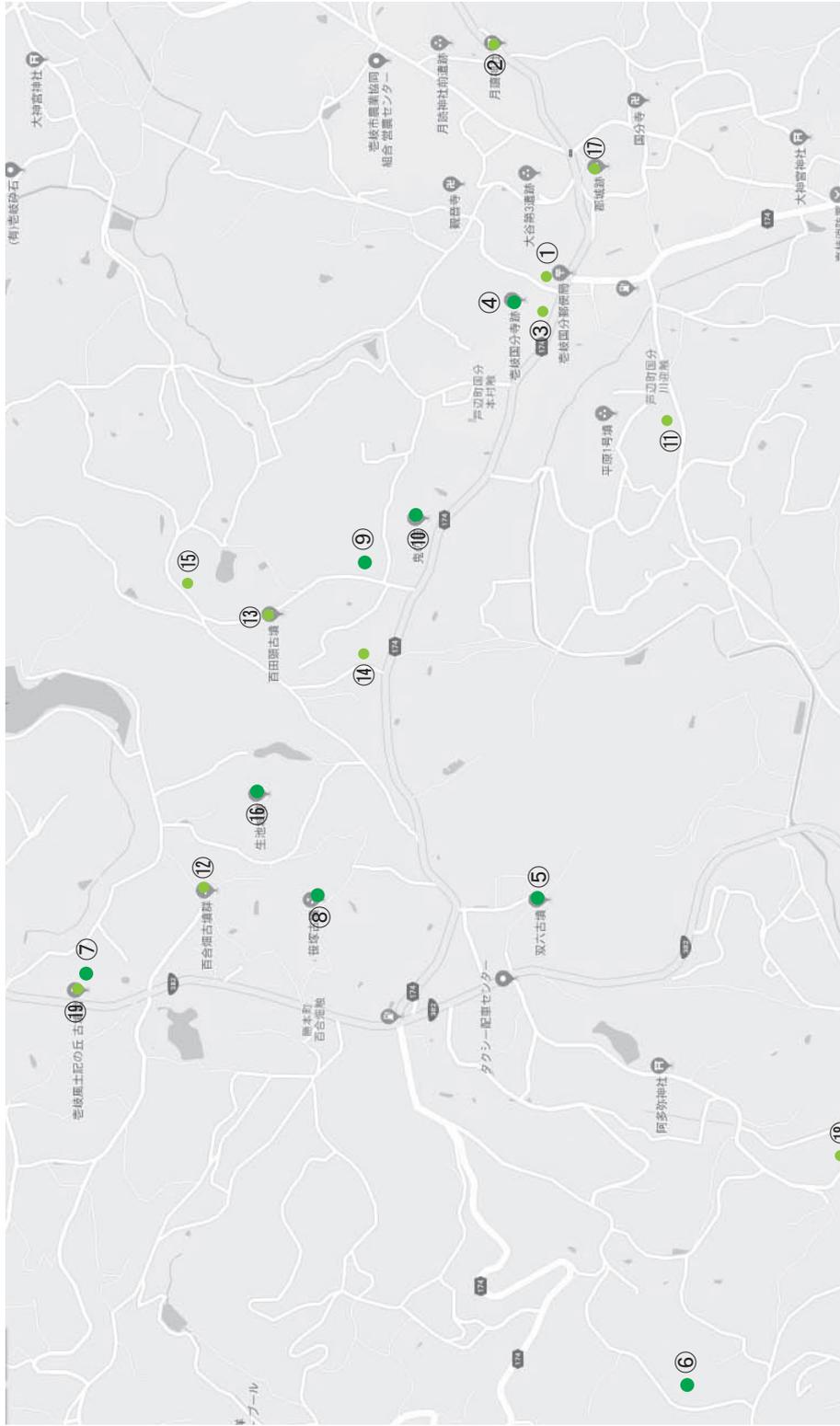
安国寺



大塚山古墳

歴史文化保存活用区域2（古代香岐国の中心地）

- ① 国片主神社
- ② 月読神社
- ③ 顎掛け石・へそ石
- ④ 香岐国分寺跡
- ⑤ 双六古墳
- ⑥ 対馬塚古墳
- ⑦ 掛木古墳
- ⑧ 笹塚古墳
- ⑨ 兵瀬古墳
- ⑩ 鬼の窟古墳
- ⑪ カジヤハ古墳
- ⑫ 百合畑古墳群
- ⑬ 百田頭古墳群
- ⑭ 山ノ神古墳群
- ⑮ 釜蓋古墳跡
- ⑯ 生池城跡
- ⑰ 郡城跡
- ⑱ カラカミ遺跡
- 香岐風土記の丘



(地図：Goog lemap 使用、)

	壱岐遺産	概 要
①	国片主神社 (くにかたぬしじん じゃ)	古代豪族「壱岐氏」の居館と言われる。祭神は少彦名命で、神社名は、少彦名命が大国主命と共に国を二分して治めたことに由来する。式内社24座の1つ。
②	月読神社 (つきよみじんじゃ)	式内社の明神大社に比定され、式内社24座の1つ。『古事記』、『顕宗天皇紀』、『筑前風土記』などで壱岐の月神、月読神と記録されており、700年代には崇拝されていたとされる。
③	顎掛け石・へそ石 (あごかけいし・へそい し)	『壱岐名勝図誌』には「国分石」と記載されており、壱岐の中心の道標になっていた。ここが壱岐の真ん中にあたることから“へそ石”の名前が付いたと云われている。
④	壱岐国分寺跡 (いきこくぶんじあと)	天平時代の嶋分寺、豪族・壱岐直(いきのあたひ)の氏寺を転用。長崎県により発掘調査が行われている。
⑤	双六古墳 (そうろうこふん)	長崎県最大の前方後円墳。全長91m。巨石を用いた複室構造の横穴式石室。石室全長11m。副葬品は一括して重要文化財。日本最古の中国製二彩陶器(北齊)や新羅土器等、大陸との交易を示すものもある。6世紀後半の築造。
⑥	対馬塚古墳 (つしまづかこふん)	壱岐では双六古墳に次ぐ規模の前方後円墳。全長65m。巨石を用いた複室構造の横穴式石室。6世紀後半の築造。
⑦	掛木古墳 (かけぎこふん)	円墳。一部削られているが、基の墳丘は直径約30m。巨石を用いた複室構造の横穴式石室。玄室に冢形石棺があり、壱岐では唯一の刳抜式石棺。出土遺物から6世紀末に築造され7世紀前葉頃まで追葬されたと推測される。
⑧	笹塚古墳 (ささづかこふん)	大規模円墳。墳丘直径約66m。巨石を用いた複室構造の横穴式石室。石室全長15.2m。玄室に組み合わせ式石棺。副葬品は一括して重要文化財。豪華な馬具類や朝鮮半島系の緑釉陶器などが出土。
⑨	兵瀬古墳 (ひょうぜこふん)	大規模円墳。墳丘直径約53.5m。巨石を用いた複室構造の横穴式石室。石室全長12.3m。玄室に組合せ式石棺が倒れた状態で確認。出土遺物から、6世紀末頃に築造され7世紀前半まで追葬されたと推測される。石室の前室壁面に線刻画がある。
⑩	鬼の窟古墳 (おにのいわやこふ ん)	大規模円墳。墳丘直径約45m。複室構造の横穴式石室。石室全長16.5m、長崎県で最大。副葬品に新羅土器などが出土。6世紀末頃に築造されたと考えられる。
⑪	カジヤバ古墳 (かじやばこふん)	町道拡幅工事に伴い約5mほど北に移築復元。直径約11mの円墳。単室両袖式の石室。石室全長5.7m。玄室の鉄釘から木棺が据えられたと推測。陶質土器鉢とともに「律令的土器様式」の畿内系土器器杯が出土、朝鮮半島との交流ならびに中央との結びつきをもった被葬者と推測。6世紀後半から末頃に築造され、7世紀に数度の追葬を経て、8世紀後半まで祭祀が行われたと考えられる。
⑫	百合畑古墳群 (ゆりはたこふんぐん)	前方後円墳4基、円墳19基からなる古墳群。4基の前方後円墳の全長は26m、25m、21m、20mを測る。2基で横穴式石室が確認され、他は明確でない。円墳は、墳丘直径約5～20mほどの規模が大半であるが、径約31mの大型が1基ある。石室の判明したものは横穴式石室である。前方後円墳の首長墓を盟主としてつながる一族・係累墓と推測。5世紀～6世紀代に造営された古墳群と推測。
⑬	百田頭古墳群 (ひゃくたかしらこふ んぐん)	8基の円墳からなる古墳群。墳丘は削られたものが多いが、直径約12～17m。、石室は、単室が2基と2室が3基の横穴式石室で、玄室はドーム状の持ち送り構造を持つ。5号墳には舟の線刻画がある。全長4.6～7.5m。出土遺物から6世紀中頃に築造が始まり、7世紀まで追葬され、遅いものでは8世紀前半代まで祭祀が行われたと考えられる。
⑭	山ノ神古墳群 (やまのかみこふんぐ ん)	山ノ神古墳 直径約14mの円墳 横穴式石室 6世紀後半までに築造 山ノ神1号墳 直径約15mの円墳 小規模であるが、石室は巨石古墳との類似点がある。 山ノ神2号墳 前方後円墳、 山ノ神5号墳 円墳 石室に線刻画がある。
⑮	釜蓋古墳群 (かまふたこふんぐん)	7基の円墳からなる古墳群。墳丘は削られたものが多いが、直径約13～19m。石室は、2室が3基、3室が2基の横穴式石室。玄室は箱形に持ち送りされた構造を持つ。全長6～7m。6世紀末頃から築造が始まり、遅いものでは8世紀前半まで祭祀が行われている。特筆すべき出土遺物として、6号墳の銅鏡と玄界灘式製塩土器、5号墳の水晶製の三輪玉があげられる。
⑯	生池城跡 (なまいけじょうあと)	中世山城。別名「牛ヶ城」「宇志賀城」ともいわれる。倭寇史上に名を残す松浦党の一人、源壱の居城とされる。本丸部分を楕円形状に空堀が二重に巡り、門跡や周囲に土塁が認められる。堀の幅は1.6m、深さ3.3mほどあり、島内では数少ない二重の堀などの遺構が残る。源壱の名は、勝本町報恩寺の十一面観音菩薩の胎内文書に、天文11年(1543)に観音菩薩を寄進した記録に残る。

	壱岐遺産	概要
⑰	郡城跡 (こおりじょうあと)	15世紀初頭頃の城館跡。別称「塩津留城」とも呼ばれ、塩津留氏の居城であったといわれる。塩津留氏は松浦党の一派で、朝鮮との貿易者として船(歳遣船)の所有を認められていた。曲輪の形態は方形で、南側に土塁、周囲三方に幅広の空堀が配置される。堀の深さは約2m。南東隅の土塁は幅が広く、隅櫓が想定される。方形の曲輪は、他の館城とは異なる特色のある城館。
⑱	カラカミ遺跡 (からかみいせき)	標高約80mの小高い丘陵上に位置する弥生時代の環濠集落跡。原の辻遺跡が立地する標高5mと対照的な立地環境にある。遺構では、環濠をはじめ甕棺墓や土坑、地上式炉跡及び大型の竪穴住居跡を検出。遺物では、外国との交流を示す楽浪系瓦質土器の鉢、小形仿製鏡、遠賀川以東に出土例が多い「跳上げ口縁」の甕形土器が多数出土。石器は、敲石や凹石、台石、クド石、浮子、砥石が出土。また、アブビおこしや釣り針、銚やヤスといった鯨骨製の漁撈具や吉凶を占う骨が出土。
⑲	風土記の丘 (ふどきのおか)	古民家園と古墳館からなる。古民家園は18世紀の農家主屋を移築し、付属棟を復元して当時の生活用様子を民俗資料により展示する。古墳館では壱岐古墳群に関する概要と位置情報、また大規模前方後円墳である双六古墳の築造過程を再現した模型を展示する。 周辺の百合畑古墳群、生池城跡への散策路が設けられる。



国片主神社



月読神社



顎掛け石・躰石



壱岐国分寺跡



掛木古墳



鬼の窟古墳



百合畑古墳群



壱岐風土記の丘

歴史文化保存活用区域3（海のくらしと歴史の舞台）



(地図：Googlemap 使用)

- | | |
|----------------|---------------|
| ① 勝本城 | ⑬ 旧松本薬局店舗兼主屋 |
| ② 聖母宮 | ⑭ 大久保本店 |
| ③ 御仮殿 | ⑮ 旧つたや旅館 |
| ④ 神功皇后の馬蹄石 | ⑯ 杉玉のある造り酒屋 |
| ⑤ 印鑰神社 | ⑰ 長四郎さんの墓 |
| ⑥ 朝鮮通信使迎在所神皇寺跡 | ⑱ 勝本浦の街なみ |
| ⑦ 対馬屋敷跡の石堀 | ⑲ 勝本浦の朝市 |
| ⑧ 俳人・曾良の墓 | ⑳ 若宮島遠見番所・烽火台 |
| ⑨ 田ノ浦納屋場址 | ㉑ 名烏島砲台跡 |
| ⑩ 土肥家御茶屋屋敷跡 | |
| ⑪ 土肥家墓地 | |
| ⑫ 永取家鯨供養塔 | |

	壱岐遺産	概要
①	勝本城跡 (かつもとじょうあと)	豊臣秀吉が朝鮮出兵に際し、驛城として兵站基地とすることを目的に築城された。松浦鎮信が中心となり、およそ4か月で1591年(天正19)末に完成した。そして本多因幡守正武が1598(慶長3)までの7年間入部し、戦終了後に破脚された。山頂には本丸跡があり、虎口の杵形をなす石垣などが残っている。
②	聖母宮 (しょうもくう)	神功皇后三韓出兵が創建の起源ともいわれる島内有数の古社。本殿は1752年(宝暦2)に再建されたもの。西門(表門)は、1592年(天正20)に加藤清正によって建立され、その後1768年(明和5)に勝本浦鯨組棟梁・土肥市兵衛により脚材の一部が取替えられたと言われる。
③	御仮殿 (おかりどの)	聖母宮大祭(10月10～14日)、対岸の聖母宮から2隻の船で渡ってきた御神輿を祀り、神楽などの神事が行われる。御幸船2隻の船競漕による勝敗で先頭の御神輿が決まり、町内を巡りながら聖母宮に戻る。
④	神功皇后の馬蹄石 (じんこうこうごうのばていし)	神功皇后が三朝出兵の折に、この地で三韓方面に向かって気合を入れたとき、乗っていた馬にもその気持ちが伝わり、馬蹄を乗せていた石に穴が開いたと伝えられる。
⑤	印鑰神社 (いんにやくじんじや)	871年(貞観13)、外敵の警戒を厳重にする為、大宰府から大量の武器が送られ、勝本浦に武器庫が造られたと言われる。印は官印、鑰は官庁の倉庫の鍵を指す。重要な印や鍵を保管する場所であったと考えられている。
⑥	朝鮮通信使 迎接受神皇寺跡 (ちょうせんつうしんし げいせつ しよじんこうじあと)	江戸時代に朝鮮通信使は勝本浦に往路11回、帰路8回寄港し、平戸藩の接待を受けた。当時の宿舎は2500坪あったと言われる。現在は基礎石と伝わる石が3個残されている。
⑦	対馬屋敷跡の石塀 (つしまやしきあとのおいしべい)	江戸時代、対馬藩が朝鮮通信使に同行する際に滞在していた屋敷。当時の屋敷面積は335坪で、60人以上の対馬の人々が常駐していたと言われる。現在は石塀だけが残っている。
⑧	俳人・曾良の墓 (はいじん・そらのほか)	河合曾良(1649～1710)は蕉門十哲の一人で奥の細道に随行した。1710年(宝永7)3月に来島し、同5月に中藤家で客死した。総高130cm、塔身53.5cm。
⑨	田ノ浦納屋場址 (たのうらなやばあと)	江戸時代、捕獲された鯨の解体が行われていた場所。絵図『壱岐名勝図誌』から、現存する石垣が、当時の石積の岸壁であることが分かる。
⑩	土肥家御茶屋屋敷跡 (どいけおちややしきあと)	土肥家4代目当主が1767年(明和4)に新築した別邸・御茶屋屋敷の跡。現存する石塀は「アボウヘイ」と呼ばれ、高7m・長90mに及ぶ。壱岐の捕鯨業隆盛がしのばれる。
⑪	土肥家墓地 (どいけぼち)	鯨組全盛期の土肥家初代から6代までの墓。各代の墓石は2m近い巨大なもので、富の豊かさを物語る。
⑫	永取家鯨供養塔 (ながとりけくじらくようとう)	勝本浦の鯨組「永取組」が建てた供養塔。永取組は元は「原田組」であったが、「鯨が永く取れるように」と1864年(元治元)に平戸藩主から永取の姓を賜ったと言われる。
⑬	旧松本薬局店舗兼主屋 (きゅうまつもとやつきよくてんぼ けんしゅおく)	1912年(明治45)建築の店舗兼住宅。1階は格子窓が付いた和風の雰囲気、2階は石積風の目地を入れたモルタル塗と銅板貼の両開き戸で洋風の雰囲気を持つ。平成21年に国登録有形文化財に登録。
⑭	大久保本店 (おおくぼほんてん)	明治時代以前に建てられた木造2階建の住宅。「ばんこ」や「持ち送り」など、勝本浦独特の古い建築様式が随所に残る。昭和中期までは海産物問屋「大久保本店」であったが、現在は店名を復活させたカフェが営まれている。壱岐市まちづくり景観資産(景資第2-95号)。
⑮	旧つたや旅館	木造3階建。勝本浦に客船が発着していた昭和30年代をピークに平成5年まで旅館として営業していた。その後空き家であったが、近年改修されゲストハウスとして営業している。
⑯	杉玉のある造り酒屋	明治・大正時代は造り酒屋であった。杉玉は造り酒屋が新酒が出来たことを知らせる際に軒先に吊るしていた。現在、醸造は行われていないが酒屋として営業している。
⑰	長四郎さんの墓 (ちょうしろうさんのほか)	天保年間、7歳の長四郎という童子が平戸藩城代家老の行列を横切り手打ちにされた。人々はこれを憐れみ供養塔をつくり霊を慰めてきた。現在も近所の人々が供養を続けている。
⑱	勝本浦のまちなみ (かつもとうらのまちなみ)	江戸時代に捕鯨により、大正期にはブリ1本釣りで栄えた浦。浦の海岸線約3.5kmに沿って主要道路が通り、その両側に隙間なく人家が並ぶ。浦の風景が良好に保たれている。
⑲	勝本浦の朝市	江戸時代に漁民、農民がそれぞれ産物を持ち寄り交換したのが始まりと言われる。現在でも毎日市がたつ。

	壱岐遺産	概要
⑳	若宮島遠見番所・烽火台 (わかみやじまとおみばんしょのろしだい)	1641年(寛永18)、海上を通過する船の監視のため設けられた遠見番所跡。1849年(嘉永2)1月23日、遠見番だった勝本の土肥甚右衛門は、城代に異国船の勝本沖出現を報告している。
㉑	名烏島砲台跡 (ながらすじまほうだいあと)	1937年に壱岐要塞の施設として砲台が設置された。実用されることなく1950年に砲台は撤去されている。
	文書	各家に伝わる文書が残されており、その中には近世壱岐における神社行事や社家の生活、1000点にのぼる社寺建築の下絵、手本、大工仕事に関する事項が記されており、貴重なものである。



勝本城



聖母宮



神功皇后の馬蹄石



朝鮮通信使迎撃所神皇寺跡



対馬屋敷跡の石塀



田ノ浦納屋場址



永取家鯨供養塔



旧松本薬局店舗兼主屋



大久保本店



旧つたや旅館



杉玉のある造り酒屋



長四郎さんの墓

第5章 壱岐遺産保存活用における問題点と基本方針

第1節 現状及び問題点の把握

(1) 壱岐遺産の把握と整理

壱岐遺産は既知の文化財に加え、未指定のものや民俗文化財、あるいは景観など多岐にわたる。今後その悉皆的な把握について情報収集と調査が必要となる。

また、既知の文化財は国指定・登録、県指定・登録の他、旧4町の指定となるが、壱岐市としての統一した基準に基づく把握と整理が課題となる。

(2) 保存に関する課題

① 修理

木造建造物については、旧松本薬局や碧雲荘など一部修理がなされているものの、その他全般的に老朽化が進んでおり、今後計画的な修理が課題となる。また、石造物や石垣についても劣化や破損状況の把握と修理が必要となる。

さらに、伝統的な民家のあり方を伝える壱岐風土記の丘の古民家や、壱岐出身の電力王、松永安左エ門の生家、あるいは原の辻遺跡の復元建造物など、壱岐の歴史文化を語るうえで必要な諸施設についても老朽化や破損の状況把握と修理が必要となる。

② 防災・防犯

建造物の防火対策や耐震対策、あるいは台風等の気象災害への対策について、個別に確認し必要な対策を行うことが課題となる。

また、社寺や個人宅に所蔵される工芸品や絵画、文書類について、その保管状況の確認とともに、散逸や盗難、滅失への対策が必要となる。近年の状況として、安国寺の高麗版大般若経は盗難の被害を受け、また集中豪雨による土砂崩れにより金蔵寺（勝本町）の本堂が倒壊し市指定文化財2点が一時不明となった。

③ 伝統文化の継承

壱岐神楽や聖母宮のまつりなど、現在も盛んに行われる祭礼や行事がある一方で、年中行事や郷土料理、民間信仰や古い暮らしを伝える民具など、失われつつあるものも多い。なかでも鬼凧のづくり手や茅葺屋根職人の後継者不足により技術の伝承が危ぶまれる。現在残る事物の収集とともに、技術の伝承にかかる人材育成が課題となる。

④ 景観保全

壱岐の海岸や港の景観、また広がる水田と点在する背戸山からなる散村の風景、あるいは古い港町の景観を留める勝本浦の街なみなど、壱岐独特の景観が現在良好に保たれている。

壱岐市景観計画において、市域全体を一般景観計画区域に設定し、さらに原の辻遺跡周辺を重点景観計画区域、勝本浦をその候補地としている。また勝本浦地区は街なみ環境整備地区に設定され、景観整備事業が完了している。自然景観については、壱岐対馬国立公園として海岸部や海域が指定されている。

今後、散村の風景など、壱岐の歴史文化を語るうえで重要な景観の保全が課題となる。

(3) 活用に関する課題

① 壱岐遺産の顕在化

多岐にわたる壱岐遺産について、あまり知られていないものや、一般公開されていな

いもの、あるいは埋蔵文化財のように地上に現れていないものも多い。

市民や来島者への情報提供とともに、市民への普及啓発、また、史跡の保存整備による顕在化などが課題となる。

②学校教育・生涯学習への活用

学校教育において、壱岐の歴史や文化に特化した授業や課外活動は行われていない。壱岐の歴史文化に誇りを持ち、その担い手となる人材の育成を目指して、学校教育及び生涯学習活動に壱岐遺産を活用して行くことが極めて重要な課題となる。

③歴史文化を活かしたまちづくりの展開

壱岐市の第2次総合計画における将来像として、「海とみどり、歴史を活かす癒しのしま、壱岐」を掲げている。また景観計画や第3期観光振興計画においても、歴史文化遺産を活かした景観形成やまちづくりを計画している。

壱岐全島や各地区のまちづくりにおいて、壱岐遺産を活用した持続性のある取り組みが課題となる。

第2節 壱岐遺産の保存活用基本理念

「壱岐遺産」とは、壱岐らしさを醸し出す核となる文化財である。ある文化財に触れ、関わることで先人から伝えられてきた歴史や文化を感じ取ること。またこの文化財を守り伝えていく様々な人の営みや、関わる人のつながりが広がること。これらの積み重ねが「壱岐らしさ」を醸成していく。しかしながら、現代においては社会環境の変化により失われつつある伝統的なものごとも多い。この壱岐遺産をより多く見出すことは、緊急性の高い取り組みとなる。

壱岐の歴史文化は壱岐市民が中心となり守り伝えていくものである。従って、市民が理解を深め、身近なものとして関わり、文化財継承の担い手として様々な活動に主体的に参画することを目指す。また、壱岐遺産を学校教育や生涯学習のほか、まちづくりや観光など、多面的に活用する。

壱岐市では文化財課だけでなく、他の関係部局にも広く通底し、市民の主体的な保存活用を支える。この取り組みを通じて保存活用の担い手を社会全体に広げていくことを目標に、次の三つを保存活用の基本理念として掲げる。

壱岐遺産保存活用の基本理念

○発見・収集

○保存・継承

○多面的な活用

「壱岐らしさ」の探求と発信

「壱岐らしさ」とは何か、私たちは壱岐の歴史や風土に抱かれ漠然とそのことを感じながら暮らしている。現代の社会環境の変化や暮らしぶりの移ろいのなかで、気付かぬうちに「壱岐らしさ」は変容し、あるいは薄らいでいるのかもしれない。

将来像としての壱岐らしさとは、懐古的に文化財や失われつつある伝統を語るのではなく、壱岐遺産を社会的・経済的に価値のあるものとして、あるいは思想的な支柱としてより深く位置付けていくことにある。

暮らしやすく海産物や農産物に恵まれた壱岐、国境の島としての歴史、穏やかな風土に育まれた文化に誇りを持ち、その全体が醸し出す「壱岐らしさ」を現代の生活に多面的に位置付けていくこと。さらには「壱岐らしさ」＝「壱岐の素晴らしさ」を探求し、内外に発信し続けていくことを通じてより多くの関心を集め、歴史文化に基づく持続的な人々の集まりを目指すものである。

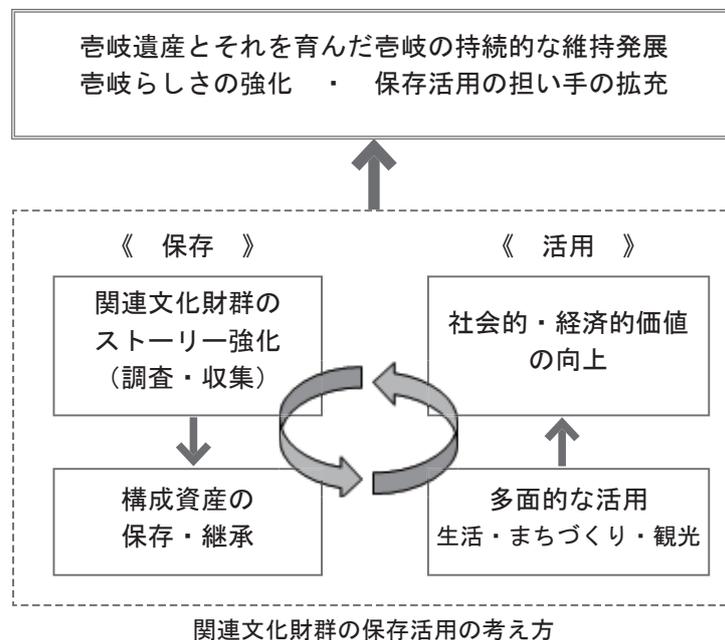
第3節 壱岐遺産保存活用の基本方針

(1) 関連文化財群の保存活用の考え方

関連文化財群は、壱岐の特徴的な歴史的事象や島の生活で培われたものごと、また文化を育んだ島の風土など、壱岐らしさを物語るテーマごとに壱岐遺産を分類したものである。

それぞれのストーリーを物語る文化財をより多く関連付け、豊かで強固なものにし、より分かりやすく、情報発信力を備えたものにしていく。

関連文化財群のストーリー強化により、構成資産の保存・継承をより一層推進するとともに、現代の生活や観光資源などに、民俗行事や伝統技術等を積極的に取り入れるなど、多面的に活かしていく。この取り組みを通じて壱岐遺産の社会的・経済的な価値を高め、文化財の保存や壱岐らしさの強化へと還元する。この保存と活用の好循環により、壱岐遺産とそれを育んだ壱岐の持続的な維持発展、またその担い手を拡充していくことを目指す。



(2) 歴史文化保存活用区域における基本的な考え方

① 一支国の王都と在の景観

原の辻遺跡を中心に、海の玄関口となった内海湾、船が往来した幡鉾川の連続性を顕在化する。原の辻遺跡は第一期整備を終えているが、船着場など未整備の範囲もあり、さらなる整備を計画する。原の辻遺跡の周辺に広がる壱岐の伝統的な散村の風景を保全する。さらに、周辺にある安国寺などの社寺や大塚山古墳、玉塚古墳など、時代を経た人の営みの重層性が感じられ、その積み重ねで形成されてきた景観を守り伝えていく区域とする。

② 古代壱岐国の中心地

一大勢力を誇った古代壱岐国の実証となる壱岐古墳群をより多く顕在化するとともに、壱岐氏居館の解説展示や壱岐国分寺跡の整備を核として、周辺の自然環境の保全や道路等の公共施設の景観整備を推進する。また壱岐風土記の丘は、伝統的な農家のくら

しを伝えるとともに、古代壱岐国の活用拠点としても再整備し、古墳群に関する解説展示の他、「古代壱岐国」をテーマとした各種の行事や、古墳群の維持管理・活用管理に関わる人々の拠点として利用する。古代の遺跡と継承されてきた寺院や神社、またこの地に暮らしてきた農家のあり方を現わし、他界観や信仰、くらしのあり方に触れ、伝承していく区域とする。

③海のくらしと歴史の舞台

良好に維持される港町の景観や勝本城跡を核として、国防の要衝でもあった若宮島や名鳥島を含む景観の保全に取り組む。また朝鮮通信使、鯨組などに関する遺産の顕在化や解説展示を行う。

勝本の街なみは朝市をはじめ商店街としても賑わっており、船競漕行事（ミーキブネ）を伴う聖母宮の祭礼などとともに、関わる人々の集まりと連携を深め、壱岐遺産の保存活用を核としたまちづくりへの展開を目指す区域とする。

（3）調査・収集の推進

壱岐遺産の抽出については、既知の文化財の他、あまり知られていないものや新たな視点により発見されるものなど、できる限り多く見出すことを目指す。そのため、過去の調査記録にある物件の現状調査などを進める他、市民からの情報提供を重視し、官民協働による調査・収集を推進する。

市民からの情報収集にあたっては、関連文化財群のストーリーを活用し、従来の指定基準に捉われない新たな視点からの発見を期待する。そのため、壱岐らしさを物語るそれぞれのストーリーについて普及啓発に努める。

（4）保護措置の推進

壱岐遺産を構成する個別の遺産について、より多く文化財保護法に基づく確実な保護を図るため、適切に文化財的価値を評価し、指定や登録による保護措置を推進する。

また、指定・登録文化財を含め、全ての壱岐遺産について壱岐における価値を明らかにし、所有者・管理者をはじめ、関わる人々に周知し、適切な保護について協力を求める。

従来の指定や登録基準にそぐわない遺産について、今後の収集状況によっては壱岐遺産としての登録制度なども検討する。

収集した壱岐遺産については、目録・データベースを作成し、一元的に管理するとともに、物件情報として広報誌や市のホームページなどを通じて公表する。

（5）整備・修理の方針

遺跡の保存整備については、整備効果の期待できるものや破損・滅失等の危険があるものなどを優先的に行う。

建造物については、破損状況を調査し、必要性に応じて維持修理や根本修理を行う。この際、文化財的建造物としての価値があるものについては、専門的な設計・修理工事を行う。また、耐震性については計画的に現状の耐震性能を把握し、必要に応じて応急対策や耐震補強を行う。

数多い石造物については、劣化・風化の状況調査を行い、彫刻や線刻の有無、構造的な危険性などから保護対策の必要性を検討する。その必要のあるものについては、保護覆屋や石材の保存処理等を計画的に行う。

屋内に所蔵される有形文化財について、劣化や損傷の著しいものを対象に、計画的に

修理を行う。また、保存環境を個別に把握し、必要に応じて保存施設や保存活用施設の設置を検討する。

(6) 防災・防犯

全国的に文化財の盗難や散逸等が深刻であり、緊急の課題となっている。防災対策として、先に述べた建造物の耐震対策の他、火災や落雷などに対する防災設備の設置や保守管理を計画的に進める。

防犯対策として、立地環境や公開等の運用状況に応じて、公開環境の改善や機械警備などについて検討する。

防災・防犯対策としては管理体制が重要であり、所在地と保管状況の把握、管理者の明確化、定期的な点検・確認の実施を図る。また、火災やき損、盗難等の緊急時の体制を確立する。

(7) 民俗文化財等の伝承

生活文化に係る民俗行事や祭礼、あるいは伝統芸能や漁・農に関する伝統技術や用具、また郷土料理や伝統的な遊びや玩具など、失われつつあるものを収集し、保存し、また伝えていく取り組みを継続する。現在残るものごとの収集や、記憶する人々からの聞き取りなどを緊急の課題として行う。さらに、収集したものや情報を公開するとともに、壱岐のくらしのものがたりとして調査研究を継続し、定期的な情報発信を継続する。

この取り組みを通じて市民からのさらなる情報収集を推進するとともに、伝統的なものごとの官・民による活用方法を検討する。

(8) 景観保全の推進

壱岐対馬国定公園や景観計画に基づく景観保全は今後とも継続する。さらに、散村・漁村の風景や文化財の周辺環境など、壱岐の歴史文化を語るうえで重要な景観について、その選定と住民との合意に基づく景観保全に努める。

保全すべき景観については、壱岐市の調査や観光関連の情報の活用の他、市民や来島者からの意見を募る。収集した景観については壱岐遺産の抽出基準に基づいて検討のうえ選定する。壱岐遺産とした景観についてはその範囲や視点場を定める。壱岐は全島が一般景観計画区域であるが、選定した景観については関わる土地所有者や管理者に、より一層の景観保全への協力を求める。

選定した景観のうち、特に重要なものについては景観計画における重要景観計画区域への位置付けなどについて検討する。

(9) 学校教育・生涯学習への活用

将来の担い手の育成を目指して、学校教育との連携により児童・生徒が壱岐遺産を理解し、親しむことを目指した取り組みを行う。また、壱岐遺産に関連する行事等を生涯学習に活用するなどの活動を通じて、世代間交流による人材育成を図る。

(10) 公開活用の方針

壱岐遺産の公開活用に関するセンター機能を設ける。ここを拠点に保存活用に関する情報を収集し、市民や行政関係者と共有する。また、公開する遺産の情報提供は一支国博物館の他、来島者の窓口となる郷ノ浦港、芦辺港、印通寺港、壱岐空港に設置すべく関係団体と連携する。

公開情報のあり方として、近年増加する訪日外国人や障がい者へも対応したものとす
る。また、観光関連産業や交通機関とも連携し、島内外での発信力を強化する。

島内の壱岐遺産を巡る誘導として、案内地図や誘導標識を整備する。点在する文化財
について、解説施設が設置されているものも多いが、未設置のものについては計画的に
名称標識や解説施設設置を進めていく。

遺跡や建造物、石造物、社寺などについては上記の誘導を充実させる。

有形文化財については、個別の状況により公開の可能性を検討する。重要なもので現
物の展示が難しいものについては、デジタル複製やアーカイブの公開など、先進技術の
活用も検討する。

第6章 保存活用計画作成に関する基本方針

関連文化財群を構成する壱岐遺産、また歴史文化保存活用区域ごとに、包括的な保存活用計画を策定する。この作成の主体は壱岐市とし、個別の壱岐遺産の所有者・管理者との合意に基づいて策定する。

第1節 壱岐遺産の包括的な保存活用計画

計画の対象は本構想において設定した関連文化財群を構成する壱岐遺産全てとする。これらの種別は史跡・建造物・石造物や美術品、有形・無形の民俗文化財、また自然環境など多岐にわたるが、包括的な保存活用計画ではそれぞれの関連文化財群のストーリーを強化し、発信する方策を計画する。さらに、関連文化財群を横断的に活用する方法を検討する。

【策定項目例】

- ・ 計画条件の整理（目的、対象、関連計画など）
- ・ 関連文化財群ごとのストーリーの明示
- ・ 構成する壱岐遺産と相互の関連性
- ・ 保存活用の方針（関連文化財群、あるいは壱岐遺産全般）
- ・ 発見・収集の方法（壱岐遺産収集、ストーリー強化など）
- ・ 保存・継承の方法（構成資産のモニタリング方法、種別ごとの保存・継承の方針など）
- ・ 活用の方法（情報発信、市民生活への活かし方、観光への活用など）
- ・ 体制の整備
- ・ 事業計画

第2節 歴史文化保存活用区域の保存活用計画

本構想において計画する3地区の歴史文化保存活用区域「一支国の王都と在の景観」「古代壱岐国の中心地」「海のくらしと歴史の舞台」に関する保存活用計画であり、それぞれの構成資産及び地区の景観を対象とする。壱岐遺産の包括的な保存活用計画と同様に、多岐にわたる構成資産を有機的に関連付け、保存継承と活用について計画する。とりわけ、区域内の歴史文化に基づくまちづくりの視点が重要となる。

【策定項目例】

- ・ 計画条件の整理（目的、対象、関連計画、区域の環境、区域の現状など）
- ・ 歴史文化保存活用区域の性格の明示
- ・ 構成する壱岐遺産と相互の関連性
- ・ 区域の保存活用の方針
- ・ 発見・収集の方法（壱岐遺産収集、ストーリー強化など）
- ・ 保存・継承の方法（構成資産のモニタリング方法、種別ごとの保存・継承の方針など）
- ・ 区域の環境保全
- ・ 活用の方法（情報発信、市民生活への活かし方、観光への活用など）
- ・ 体制の整備（地区の連携体制を含む）
- ・ 事業計画